

令和3年度 学校評価報告書

小樽市立花園小学校
校長 木村 俊夫

1 本年度の重点目標

『やる気スイッチ ON! 花園の子』
～将来の夢を持っている・堂々と意見が交わせる・協働できる子どもの育成～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力 の育成	確かな学力 の育成	◆全国・学力学習状況調査(6年)において 国語・算数を全道平均以上とする。標準学 力調査(3・5年)において国語・算数を全国 平均以上とする。	B	※取組状況の詳細は、学校関係者評価委員、6年生保 護者に公表(全国学力・学習状況調査における数値結 果はHPには非公表)	B
	特別支援教育 の充実	◆対象となる全児童の個別の指導計画の 作成と個別の教育支援計画(後志版)を整 備し、活用する。(関係機関との連携強化 による支援の充実)	A	・特別支援学級児童9名+通級指導教室在籍児童10名 の「個別の教育支援計画」	A
	国際理解教育 の充実	◆3～6年生において、中学校教員(専科 教員)による専門的な質の高い外国語授業 (活動)を実施する。	A	・青園中教員が通年で3～6年の外国語活動を担当。「外 国語活動が好きですか」に肯定的な回答が80.5%	A
	理数教育 の充実	◆公開授業を実施し、教員の指導力の向 上に努める。	A	・釧路教育大学 早勢教授を助言者にオンライン形式で6 年算数の公開研究授業を10月に実施 ・全学級の校内研究授業の実施	A
	情報教育 の充実	◆各家庭におけるメディア使用に関する ルールを80%以上が設定する。	A	・オンライン学習における情報端末に関するルールを決 め児童に周知	A
	キャリア教育 の充実	◆全学年で職場体験や外部専門家等を指 導者や講師とする出前授業等を活用した キャリア学習を実施する。	A	・1年給食センター調理員の仕事 2年図書館司書の仕 事 3年警察署の仕事 4年終末処理場の仕事 5年食に 関する仕事 6年ガラス製作体験、食に関する仕事(知産 志食しりべし事業)	A
改善方策		・基本的な学習規律や生活習慣等、児童の望ましい変容を促す組織的、重点的な取り組みを徹底して実行する。 ・加配教員を活用した工夫改善を進め、授業の質的な向上を図る。 ・今までの自校の取組のよさを整理しつつ個々の授業実践を学校全体の教育ビジョンにつなげる。			
学校関係者評価委 員による意見		・休みの期間以外も、クロームブックの持ち帰り回数を増やしてほしい。オンライン学習になれない児童へ支援をしてほしい。 ・学級閉鎖時のオンライン授業の時間を増やすことや通常授業でオンラインを同時に行うハイブリッド化を検討してほしい。 ・家庭学習と連携した基本的な生活習慣の改善や充実とともに保護者への啓発を継続して実施してほしい。			
2 豊かな心 の育成	道徳教育 の充実	◆「いのちの日(1月27日)」に外部講師に よる「命の授業」を継続する。	A	・1月27日に余市養護学校コーディネーターを講師に命 の日の集会(オンライン)を実施	A
	ふるさと教育 の充実	◆全学年で地域教材(施設・人材・歴史・ 自然等)を活用した学習を実施する。	A	・1年花園公園・入船公園 2年小樽水族館 3年小樽警 察署 4年金融資料館・中央下水処理場 5年似鳥美術 館 6年似鳥美術館・火山科学館他	A
	読書活動 の推進	◆70%以上の児童が毎日、家庭で読書をする。	B	・全国学力学習状況調査児童質問紙で毎日30分以上読 書習慣がある児童は34.3%	B
	体験活動 の推進	◆「砂まきボランティア」など、地域の環境 整備などの社会貢献活動を実施する。	A	・5年砂詰めペットボトルボランティア実施10月(運河周辺 での砂ボトル配付は昨年に引き続き中止)	A
	コミュニケーション 能力の育成	◆全国学力・学習状況調査において、「学 級の友だちとの間で話し合う活動を通じ て、自分の考えを深めたり、広げたりする ことができていると思いますか」という質問に 対して肯定的に回答した児童の割合が60% 以上とする。	A	・左記の質問に肯定的な回答をした児童は77.2%	A
	いじめの防止や不 登校児童生徒の 支援の充実	◆「手話教室」等の外部講師による人権や 福祉に関する授業を実施する。	A	5年手話教室10月、高齢者疑似体験12月	A
改善方策		・緊急的な生活指導を組織的に対応させ、保護者からの信頼を高める。 ・地域の教育資源や人材活用をさらに充実させる。 ・いじめ、不登校、問題行動の未然防止を図るため客観的な児童理解資料を積極的に活用する。			
学校関係者評価委 員による意見		・コロナ禍で大変だと思うが、ボランティア活動は全学年で実施してほしい。 ・手話教室の実施学年を増やしてほしい。 ・学級閉鎖を含め感染症対策のため、先生方が目標とする活動もできなかったことが多かったことと思う。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	◆全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において体力合計点が全道平均を上回る。	B	※取組状況の詳細は、学校関係者評価委員、5年生個別に公表(全国体力・運動能力・運動習慣等調査における数値結果はHPには非公表)	A
		食育の推進	◆栄養教諭による「食育教室」を全学年で実施し、「食育だより」を発行し、児童・保護者に対して、食育を積極的に啓発する。	A	・全学年で栄養教諭による食育教室の実施	A
		健康教育の充実	◆「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を児童の80%以上にする。	A	・全国学力学習状況調査児童質問紙で「早寝・早起き・朝ごはんをしている」に対し肯定的な回答をする児童は早寝80%早起き85.7%朝ごはん94.3%	A
改善方策		・計画的なスポーツテストの実施を中心として組織的な体力向上を進める。 ・基本的な生活習慣形成(早寝早起き、挨拶、朝ごはん、メディアに関するルール等)の取組を奨励する。 ・体力調査の結果と連動させた栄養教諭の効果的な活用を図る。				
学校関係者評価委員による意見		・食育が計画的に行われているのがとても良い。昨今の家庭状況から、家庭(保護者)にこそ、子どもの食事の大切さを働きかける食育が必要ではないか。 ・「朝ごはん100%」となるように各家庭で働きかけてほしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	◆普段、授業以外に学年×10分以上勉強している児童の割合が50%以上、全く勉強しない児童を5%以下とする。	B	・全国学力学習状況調査児童質問紙で学年×10分以上勉強している児童は45.8%、全く勉強していない児童は8.6%	B
		学校と地域の連携・協働の推進	◆地域行事や町内会等と連携・運動を図った取組を年2回以上実施する。	B	・感染症対策のため「町会と連携したグリーンロードのクリーン活動」「町会・菁園中と連携した潮ねりこみ参加」は未実施	B
改善方策		・学年の発達段階に応じた「ふるさと教育」をすすめるとともに、自分の言葉でふるさとの良さを語ることができるよう地域(小樽・花園地域)の学習を工夫する。				
学校関係者評価委員による意見		・基本的な生活習慣形成(早寝早起き、挨拶、朝ごはん等)の取組をPTAと協力して進めてほしい。 ・家庭学習をしている児童の割合が70%になることを目指して、指導してほしい。 ・コロナ禍が収束した後は、地域としてたくさん交流したいと考えている。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	◆「小樽市における小中一貫教育の5つの視点」に基づく、小中一貫教育に取り組む。	A	・「花園・菁園地区小中学校連携推進会議」の各部会(組織)の定期的な連携・協働を進めた。 ・花園菁園合同学校運営協議会で小中一貫教育について説明	A
		教育環境の整備・充実	◆ICT機器(実物投影機やタブレット、校内Wi-Fiなど)を効果的に活用する場面を増やす。	A	・ICT端末機器に関する校内研修会、GIGAサポーターによる研修会等を複数実施 ・5・6年算数でデジタル教科書やチャレンジテストのクローブック入力で活用 ・全児童のアンケート入力にクロームブック使用	A
		教職員の資質・能力の向上	◆体罰に関する調査で「体罰0」を継続する。 ◆市内を対象とした公開研究会を実施する。	A	・体罰に関する調査で「体罰0」結果 ・市内教職員を対象にしたオンライン公開研究会を実施10月	A
		学校運営の改善	◆学校独自の小さな取組を積み重ね、在校勤務時間45分/日の削減を進め、1か月について45時間/月(360時間/年)とする。	A	・1ヶ月45時間以上の超過勤務平均4.1人(平均26時間4分)※2月末集計時点 ・自己目標シートに働き方改革に関する個人目標の記入	A
		学校安全教育の充実	◆年4回の想定(発生時間、災害種類、非通知…)を変えた避難訓練を実施する。	A	・6月、7月、8月、2月実施(火災、地震、緊急地震対応、冬季)※冬期は避難に関する学級指導を実施	A
改善方策		・管理職が、教職員との個人面談等を活用して、教職員の法令遵守に関する意識の高揚を図る。 ・様々な情報媒体(学校だより、学校HP、安心安全メール)を利用し、学校の様子がよくわかる情報発信だった。 ・「自分の命は自分で守る」意識を醸成する安全教育を推進する。				
学校関係者評価委員による意見		・今冬は、積雪が多く、通学路の安全確保も大変だったと思う。 ・保護者・地域に向け信頼を得る適切で積極的な情報発信を継続してほしい。 ・自分の命は自分で守る意識を醸成する安全教育を推進してほしい。・安心安全メールは効果的に活用されていたと思う。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			◆2年の図書館見学、3年の総合博物館見学を継続して実施する。	A	・3年総合博物館オンライン見学2月 ・2年図書館見学はコロナ感染症対策で中止	A
改善方策		・継続して地域の教育資源や教育施設の積極的な活用を図るとともに、教科との関連、指導内容、学年の系統性について教育課程における整備を進める				
学校関係者評価委員による意見		・様々なキャリア教育につながる外部機関や外部講師の授業を今後も充実させてほしい。 ・郵便局の見学も学習に適していると思う。				